

秋田市河辺地域公共交通研究会について

(1) 研究会の設置趣旨について

秋田市におけるバス交通については、利用者の減少に歯止めがかからない状況にあるが、その傾向は、郊外部において特に顕著であり、不採算路線の路線維持が困難になるとの懸念がある。そのため秋田市では、住民の移動手段の確保について、順次、検討を進めてきているところであり、既に、西部地域および北部地域においては、路線廃止に伴う代替交通の導入を行っているところである。

このような中、河辺地域を運行する岩見三内線についても、他の郊外部路線と同様、利用者の減少等により現行どおり路線を維持することが難しくなってきた現状にある。しかしながら、住民の移動手段として、日常生活に密着する公共交通の確保は重要なことから、利便性や効率性の観点から、地域の実情に即した運行形態等を協議・検討するため、当該地域の関係者で構成される『秋田市河辺地域公共交通研究会』を設置したものである。

〔主な協議・検討事項〕

既存の乗合バスから、新たな運行形態（車両、経路、料金 等）への移行の検討

市中心部を運行する路線バスへの乗り換えのための、乗り換え地点の設定

(2) 研究会の委員構成等について

研究会は、地域の関係者から広く意見を得るため、自治会、福祉関係団体、教育関係団体、商工団体、利用者、地域審議会、運輸関係団体、行政など18名の委員で組織している。

また、公共交通についての専門的な立場からの助言をいただくため、秋田大学工学資源学部教授、東北運輸局秋田運輸支局首席運輸企画専門官の2名をアドバイザーとしている。